

日墨戦略的グローバルパートナーシップ研修計画報告書 11月

広島市立大学3年 伊達椋平

11月が過ぎ、12月に入ったところでこのレポートを書いています。広島では初雪が見られたようで、とうとう冬本番が来たんだなということを知りながらも、メキシコシティの気温は最高24度。朝晩の冷え込みで所々木々の落葉は見られるものの、パッと見た感じでは冬だとわかりません。ということはつまり、乾季で雨も降らず、気温もそこそこのとても過ごしやすい気候が続いています。毎月のように言っていることですが、大方4ヶ月目を終えようとしているところでようやくメキシコシティの気候の変化のなさ、過ごしやすさを確かに感じているところです。

死者の日

メキシコで11月といえば死者の日ですよね。前回のレポートで広島の二人がとてもわかりやすく説明していたのですごいなあとと思いながら自分も体験したにも関わらず夢中で読みました。私の場合は、家の中の死者の日と家の外の死者の日が少し違うなと思いました。家の中も家の外もオフレンダ（お供え物）で溢れているところはどこも同じでした。そしてまずはメキシコのお家にみんなが集まったのですが、家の中をきちんと飾って、みんなで食卓を囲み、パン・デ・ムエルトを手製のチョコレートと一緒に食べました。想像していた死者の日のイメージと同じように、華やかにかつ丁寧に死者を迎えるような楽しい時間でした。一方、家の外に出てみると、仮装をして楽しむ人で溢れます。ハロウィンが1日前だということもあり、その余韻からか死者の日もそれと関係ないような仮装をした人が集まっていました。他の州に行くともた違うとは思いますが、メキシコシティでは死者の日とハロウィンが同時に来て同時に終わるような感覚を味わいました。



映画の秋

〇〇の秋というフレーズはお馴染みですね。私はメキシコで日本の映画とアメリカの映画とメキシコの映画をそれぞれ1本ずつ観て来ました。メキシコシティには非常にたくさんの映画館があります。そして驚くべきはその値段で、1回日本円にしておよそ400円弱、もしくは場所によってそれ以下で観ることができます。日本の映画館の料金と比べると格安です。ここでは日本の映画とメキシコの映画を紹介します。

まずは日本の映画『僕のヒーローアカデミア』というアニメの劇場版を観ました。メキシコでは日本といえばアニメというくらいアニメ人気は高く、私の友達の何人かも日本のアニメやゲームが大好きです。おそらく日本より半年以上遅れての公開で、他の輸入映画は値段が変わらないのですが、日本のものはどうやら2割3割増しで上映されます。それにも関わらず映画館には多くの人を観に来ていました。自分の国のものを共有してもらえるとということが私にはとても嬉しく、一度見たことはあったのですが大きな満足感を味わった気持ちでした。

次は、メキシコ映画の大作とも言える『ROMA』という映画です。アルフォンソ・クアロン監督らによって共同制作された映画で、今年のヴェネツィア国際映画祭の受賞作品です。舞台は1970年頃のメキシコで、中産階級の家庭に仕える一人のインディヘナ（メキシコ原住民に近い顔立ちをした人）の人生を追ったストーリーになっています。当時の姿を限りなく再現しているかどうかは確かではないですが、そこには当時の、あるいは現在もメキシコが抱え続けている問題が割とはっきり映し出されていました。メキシコでは2度政府による大きな学生デモに対する弾圧が行われ、その様子はまさに地獄、多くの学生死者とその周りにいた無関係の人々が犠牲になりました。1度目は1968年、2度目は1971年とちょうど映画の舞台となった時代で、もちろんその激しい紛争の様子も再現されていました。その瞬間はその場にいるような緊張感と恐怖で思わず固まってしまいました。日本にも学生運動が盛んな時期があったなと思い出しながら、時代・場所・人によって異なる正義、正義の定義の難しさを考えていました。とにかく、多少の背景知識は必要とするものの、この映画はメキシコを知る上で重要な作品の一つだったと確信しています。おそらく12月14日からNetflixでも放映されるはずなので、興味のある方は、是非この映画を一度観て欲しいと思います。書ききれないほどのメキシコがそこにあります。

<https://www.youtube.com/watch?v=mqyt4L0u87I> (映画予告)

